

第1章 日の出町の歴史文化

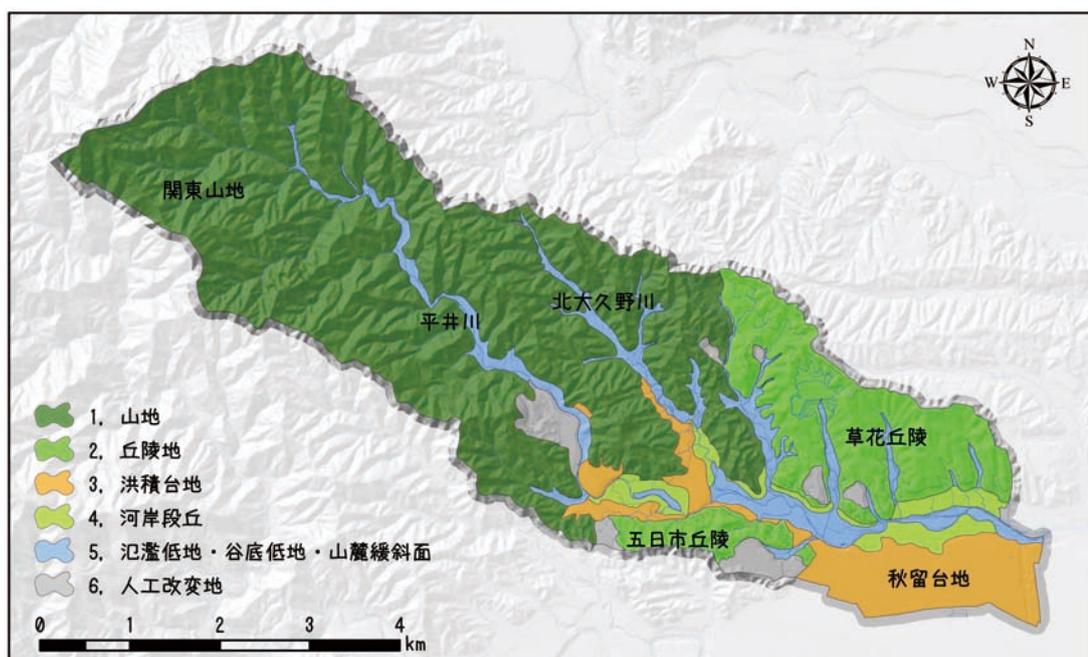
1 歴史文化の背景

地域の文化の特色は、その場所の地形や地質、気候、生物、人、そしてそれらの相互の働きの結果として、長い年月の間に形作られます。それは、地域の土地利用や佇まい、あるいはなりわいとして、長い歴史の中で引き継がれてきたものです。多くの町や地域では、近代化や効率化の中で、それらの特徴を意図的に、あるいは意識することなく消し去ってきました。しかし、日の出町では、現在も多くの歴史文化が息づき、人々の生活にとけ込んでいます。ここでは、その背景と歴史について整理しました。

1) 歴史文化の自然的背景

① 地形

関東山地の東端に位置する日の出町は、河川沿いの低地から台地（秋留台地）・丘陵地（草花丘陵・五日市丘陵）・山地（関東山地）へと変化に富んだ地形をもち、その標高差は約760mにもなります。平井川とその支流の北大久野川はその源流を町内に発し、おおむね北西から南東へと流れ、上流のせせらぎから、広い河原をもつ流れへと変化しています。また、平井川と大久野川の上流部では狭い低地と山麓の緩斜面がつながり、下流部では平井川と秋川によってはさまれた秋留台地が広がっており、人々の生活の場となってきました。このように日の出町は変化に富む地形と、豊かな水に恵まれた自然を基盤としています。

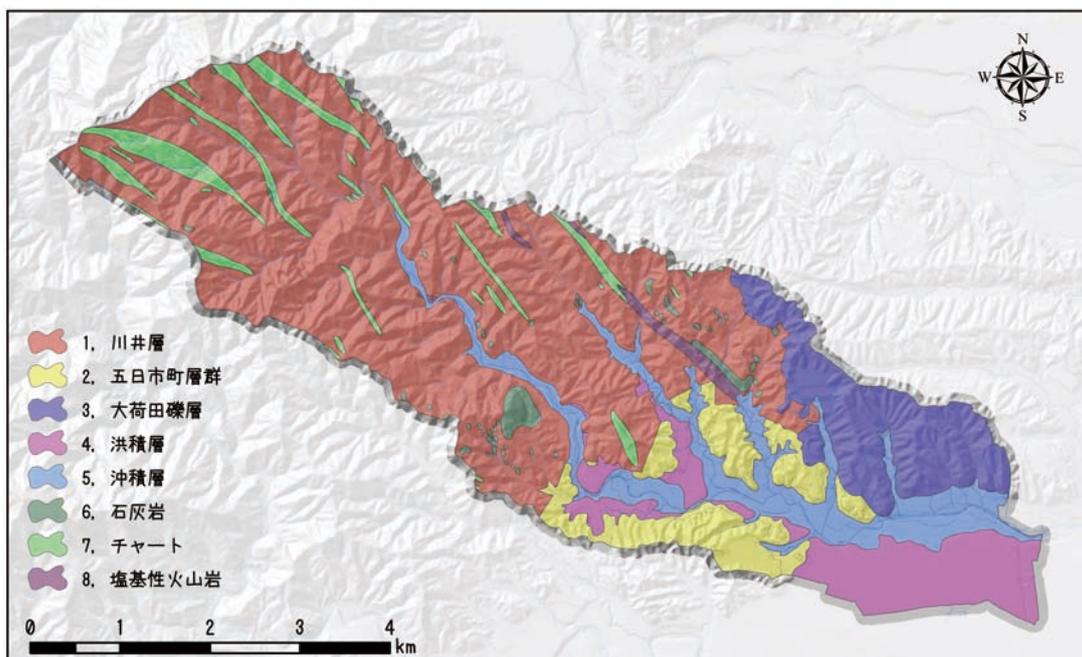


<日の出町の地形（日の出町史より作成）>

② 地質と土壌

地質的にみると、このあたりの関東山地をつくる「秩父層群」では、中生代の堆積岩類（砂岩・粘板岩・チャート・石灰岩など）からなる海底で形成された付加体が、複雑な地層を形成しています。東京都指定文化財の中生代三畳紀の生物の化石であるエントモノチスの発見はこのような地質条件によるものです。また、この地質は、その後の町の産業にも大きな影響を与え、地質的要因と気候的要因により成立していたモミ林と、山地での林業の発達を背景に卒塔婆産業が生まれました。一方で、勝峰山を中心とした石灰岩の産出地域はセメント産業を生みだし、平井川の上流域に産する固いチャートや、中流域の河川に見られる丸石は、住居の石積みや石造物などに利用され、稲村石の巨大な岩塊は往来する人々のランドマークとなってきました。

町を流下する平井川の下流域では北側に草花丘陵が連なり、その南に新生代第三紀から第四紀の地質からなる秋留台地が広がっています。秋留台地は東西 7.5km、南北 3km と広大で、北側は平井川、南側は秋川によって侵食されることで現在の地形が形成されました。この北部には、約 12,000 年前頃のヤンガードリアス期の終末期（第四紀晩氷期終末、急激に温暖化する時期）に秋川・平井川の流路の改変と大規模な土砂の流入に伴い形成された「秋留原層（真土・マツチ）」が堆積しています。この土壌は、氾濫性堆積物を母体としているため養分に富んだ土壌で、麦類や雑穀、豆類をはじめ、近世から近代では蚕の餌である桑の栽培適地でした。



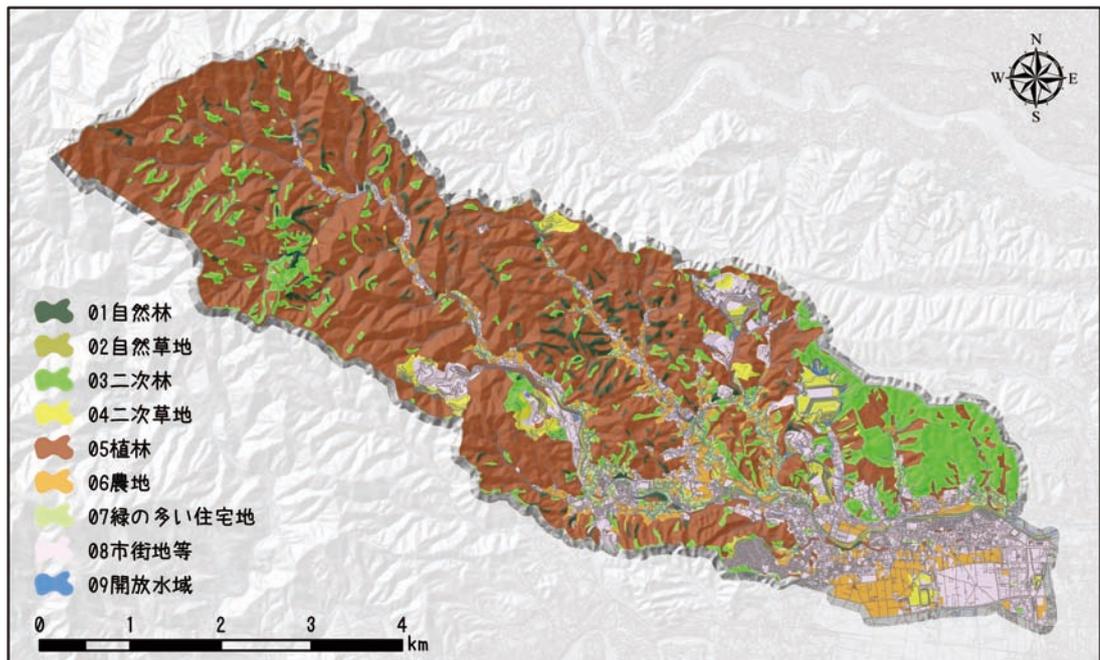
<日の出町の地質（日の出町史より作成）>

③ 土地利用と植生

日の出町は現在でも森林が町の面積の 70% 以上を占めていますが、詳しくみると植林（スギ・ヒノキ）が 55% を占めることからわかるように、林業が重要な産業として受け継がれてきたことがわかります。植林はおもに関東山地の急峻な山地に位置します。一方で平井川下流の北側に伸びる草花丘陵はかつて薪や炭をとった雑木林（落葉広葉樹林）が広がっており、山地の植

林地と対照的な景観をなしています。これは丘陵地という地形的な要因に加え、町に近く、人々の燃料を供給する場として重要であったことを反映しています。このような日の出町の緑の特徴は、昔から人々が大切に育て、管理し、利用してきた森林であるということが出来ます。

畑地や桑畑などの耕作地は、かつては秋留台地に広く分布していたことが、明治時代や大正時代の地図などから読み取ることが出来ますが、現在では台地の上は大部分が住宅地などの都市的な利用におきかわり、東京の郊外の町として変貌しつつあります。



＜日の出町の植生（環境省植生図より作成）＞

このように、日の出町の特徴は、地質や地形を反映した森と林、山から流れ出す清流、平井川が生み出した土や石、そして平井川が作り出した台地や谷底に人々の生活が支えられ、この地域の歴史文化の基盤となっていることです。

このような豊かな環境の中で、人々は縄文時代より住み始め、住居跡などの遺跡も残っています。山と水に囲まれた自然環境は、自然への信仰と自然を大切に作る心を育み、暮らしに取り込まれてきました。丘陵地では、自然環境を利用してクヌギやコナラを主体とした薪炭林を作り上げ、豊かな湧水を利用した谷戸の水田など、暮らしの中で自然と共存してきました。人手が入ることで多様な環境が維持されていた里山では、ヒメザゼンソウ、トウキョウサンショウウオ、モリアオガエルなどの天然記念物になる豊かな動植物や生態系を育んできました。

このように日の出町では、古くから信仰の対象となった山、暮らしを支えた森、平井川に育まれた水や川への思いなどが、豊かな歴史文化をつくってきました。これらは、寺社、家並み、なりわい、生活、伝統的な行事やしきたりの中に受け継がれ、今も地域の人々によって、大切に守られています。

2) 日の出町の歴史

秋留台地と平井川が現在のようにはっきりと分かれた時期に関しては、縄文時代草創期末～前期前半段階と想定されています。秋留台地では、凹地にたまった雨水や地下水のその周囲に居住域や生産域（雑穀等の耕作地）が存在していました。三吉野遺跡群欠上・下モ原地区の7世紀後半の住居からは馬具が出土し、小川牧が勅旨牧に編入される前段に馬の生産を行っていたと思われています。このことは、当地域で多く出土する東北系の土器の存在と併せて、古代の蝦夷経営と東国の交流、政治的関係を示すものです。

古代から中世にかけては、牧経営の担い手であった武蔵西党の小川氏・小宮氏の支配下に置かれ、その後平山氏の勢力が拡大します。当町に残されている中世の棟札や白山神社の大般若波羅密多経（町指定典籍）には、大檀那平山氏重の墨書（貞治5年）があり、室町～戦国期に平山氏が当町を経営していました。戦国期には、小田原北条氏の領国に編入され、平井郷に後北条氏伝馬の定、氏照印判状（都指定古文書）が残されています。当時の宿駅は現在の本宿周辺で、近隣に中世住居と地下式坑が発見されています。また、平井宿では16世紀後半以降に三齋市が開催され、鎌倉道沿いの交通の要衝でした。

近世以降は、日の出町は幕府直轄領、旗本領、田安家領など複数の領主が存在する相給村落でした。17世紀後半から中世の市を復興させ、平井宿では薪炭や織物などを扱う六斎市が立てられましたが、19世紀以降に衰退しました。

近世から近代には、林業と養蚕・織物業が基幹産業となり、近世以降に建築された蚕屋作りの民家は現在も残されています。明治15年の大火大久野焼けの復興に土蔵が建築されたのも織物業の産物を火災から防ぐ目的がありました。昭和3年には、浅野セメント西多摩工場の進出に伴い、五日市鉄道岩井支線大久野駅周辺で、病院・物品販売所・共同浴場・運動場をはじめ、電灯の普及など都市的なインフラ整備が促進されました。

昭和30年には旧大久野村と旧平井村が合併した日の出村となり、昭和49年には町制を施行し、平井地区は三吉野工業団地や三吉野桜木土地区画整理事業に伴う大規模小売店の出店により住宅地や工業地など都市市街地へと発展し、大久野地区は良好な自然環境をベースにして、つるつる温泉や各種観光施設を配置し、観光ゾーンとして位置づけられています。また、平成19年には、下水道普及率が100%に達して清流平井川が甦り、住民の愛着や憩いの場所となっています。

このように、日の出町では縄文期より人が住み始め、様々な変遷を経る中で、交通の要衝としての歴史が色濃く残り、馬頭観音像や道祖神、道標をはじめ、数多く残る社寺にあらわれています。また、いったんは途絶えた、人の暮らしを支える市も、現在は年末の平井の市に受け継がれています。また、歴史の変遷の中で、それに合わせた様々な産業が興ってきたこともまた、日の出町の特徴といえます。

2 日の出町の文化財

1) 指定文化財

指定文化財の総数は国指定2件、東京都指定5件、日の出町指定25件で、総数29件です。

大久野地区では、幸神神社のシダレアカシデ(国指定)、大久野のフジ(都指定)、高原社のスギ・赤保谷家のヒイラギ・濱中家のサルスベリ・羽生地区のヒメザゼンソウ(町指定)など、樹木や植物を中心とした天然記念物が指定されています。

一方、平井地区では、樹木等の天然記念物の指定はありませんが、下平井の鳳凰の舞(国指定重要無形民俗)、加美町・志茂町の山車(町指定有形民俗)、重松流祭り囃子(町指定無形民俗・認定3団体)など、平井宿に関連した無形民俗文化財が多く指定されています。

日の出町の指定文化財の件数は、町の人口16,040人(平成22年12月)で比率を出すと、553人/指定物件となります(旧西多摩郡平均:901人/件、三多摩平均3,097人/件、東京都平均3,857人/件)。

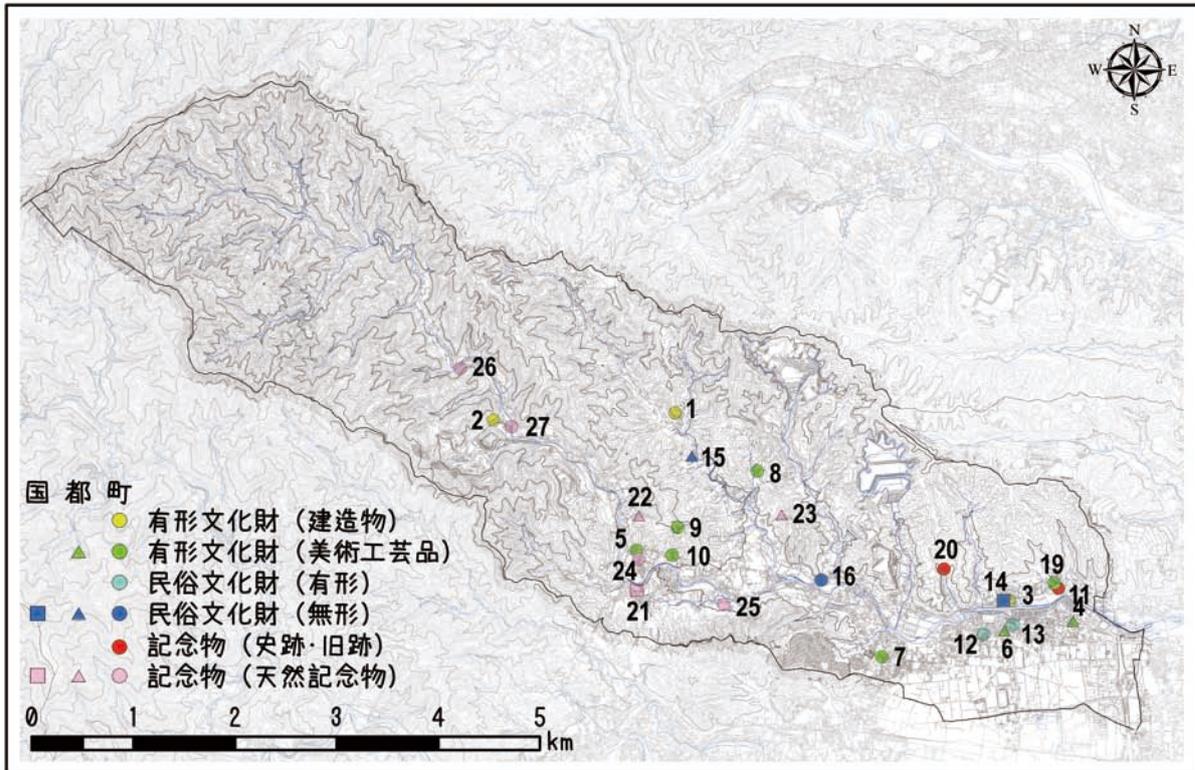
指定文化財は、住民代表で構成される文化財保護審議会の答申に基づき設定されるもので、大久野地区(天然記念物)、平井地区(無形民俗)の文化財の種別による違いは、地区の歴史文化の個性や特徴を示すものでもあります。

本構想では、指定文化財の状況を踏まえた上で、文化財の把握調査を行い、「関連文化財群」という枠組みで文化財の新たな価値を見出して評価を加えるものです。

従って、本構想によって導き出される「関連文化財群」や、日の出町の歴史文化の特性に基づいて、指定方針や指定基準、評価の方法などについても見直しを行うことが課題となります。

指定等	地区	有形文化財			無形文化財	民俗文化財		記念物			文化的景観	伝統的建造物群	合計
		建造物		美術工芸品		有形民俗	無形民俗	史跡・旧跡	名勝	天然記念物			
		件数	棟数										
日の出町	大久野	2	2	4		2			4			12	
	平井	1	1	2		2	1	2	2			10	
東京都	大久野					1			2			3	
	平井			2								2	
国	大久野								1			1	
	平井					1						1	

<日の出町の指定文化財(平成22年3月現在)>



■ 有形文化財（建造物）

- 1 : 山祇社本殿（町）
- 2 : 光明寺薬師堂（町）
- 3 : 常福寺の宝篋印塔（町）

■ 有形文化財（美術工芸品）

- <彫刻>
- 4 : 木造閻魔王坐像（都）
- 5 : 木造薬師如来坐像（町）
- <古文書>
- 6 : 田中文書（北条氏伝馬定北条氏照印判状）（都）
- 7 : 西光寺の板碑（町）
- 8 : 神明社の棟札（町）
- <典籍>
- 9 : 大般若波羅蜜多經（町）
- <工芸品>
- 10 : 天正寺の梵鐘（町）
- 11 : 東光院の梵鐘（町）

■ 民俗文化財（有形）

- <民俗資料>
- 12 : 加美町の山車（町）
- 13 : 志茂町の山車（町）

■ 民俗文化財（無形）

- <民俗芸能>
- 14 : 下平井の鳳凰の舞（国）
- 15 : 水口の双盤念仏（都）
- 16 : 玉の内の獅子舞（町）
- 17 : 長井神田囃子（町）
（大久野字長井）
- 18 : 重松流祭り囃子（町）
（志茂町・加美町・八幡・幸神）

■ 記念物（史跡・旧跡）

- <史跡>
- 19 : 高札場（町）
- <旧跡>
- 20 : 鹿の湯（町）

■ 記念物（天然記念物）

- 21 : シダレアカシデ（国）
- 22 : 岩井のエントモノクス（都）
- 23 : 大久野のフジ（都）
- 24 : 濱中家のサルスベリ（町）
- 25 : ヒメザゼンソウ（町）
- 26 : 赤保谷家のヒイラギ（町）
- 27 : 高原社のスギ（町）
- 28 : トウキョウサンショウウオ（町）
（中部山麓地域）
- 29 : モリアオガエル（町）
（山間部地域）

<日の出町の指定文化財>

2) 文化財

日の出町の地形には、山地や丘陵と台地、水源地を有する河川など、多摩地域の地形的な特徴が凝縮されており、複雑で多様な地形的特徴から、人々の暮らしや営み、土地への働きかけも様々で、個性的な歴史文化を育んできました。

日の出町の文化財は、密集して存在していないため、まとまりを認識しにくい面もありますが、周辺環境に溶け込み一体となっている文化財は、独特な景観を形成しています。

そのため、文化財を理解するためには、地形的な特徴、自然環境や景観などを手がかりにアプローチすることが有効と考えられます。

3) 文化財の総合的把握のための調査

文化財を総合的に把握するため、調査は建築、民俗、仏教美術、石造物、生物、景観の各分野で行い、文化財類型の6分野(有形文化財、無形文化財、民俗文化財、天然記念物、文化的景観、伝統的建造物群)を網羅することにしました。

調査では、従来の文化財調査であまり実施してこなかった分野(景観・生物)や、建築など核となる文化財と関連性がある分野(景観・民俗)が連携して調査を行いました。

また、日の出町の歴史文化の特性から、自然環境や景観を基盤にして、調査結果を総合的に捉えました。

(1) 建築

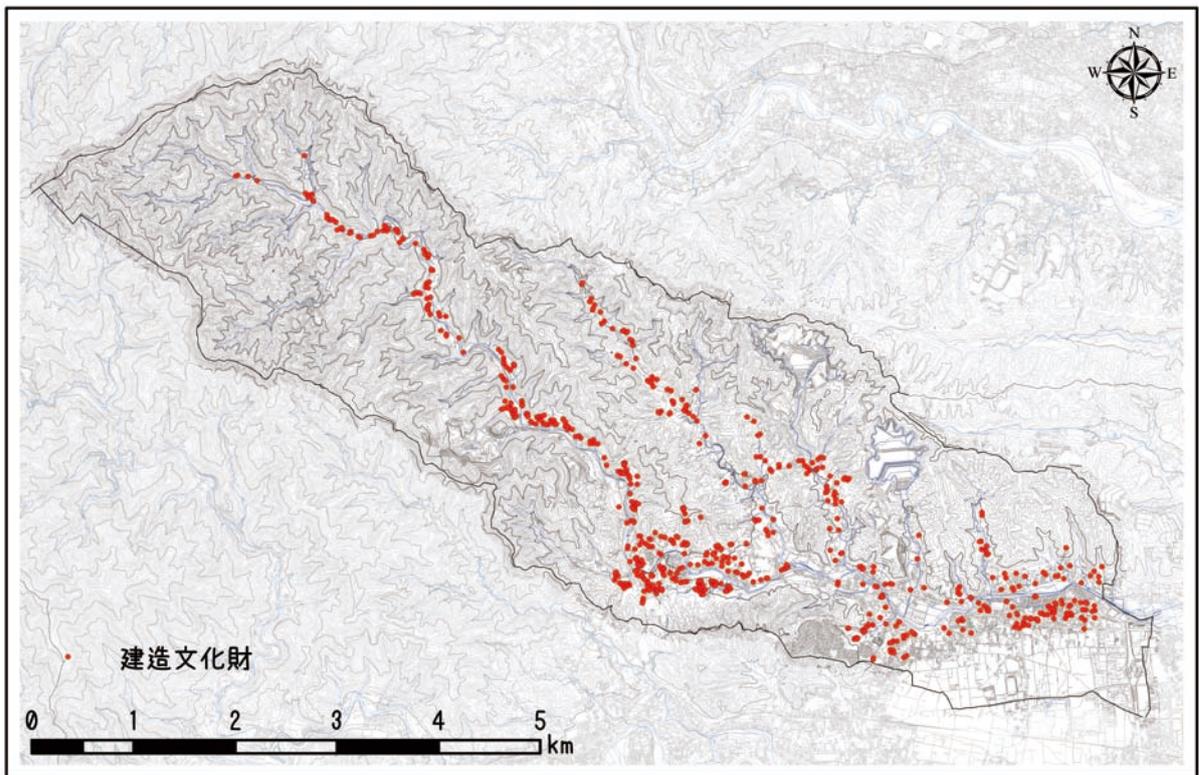
日の出町における歴史的・伝統的な建造物の調査は、これまで神社本殿1棟、民家13件23棟、土蔵76件99棟について実施されてきました。また、平成18年度から東京都の「近代和風建築総合調査」において7件の民家等が調査されました。今回の建築に関わる調査においては、上述の調査実績を踏まえて、以下の基本方針に基づき実施しました。

- ①日の出町に現存している建築文化遺産をできるだけ総体として把握する。
- ②土蔵以外で、日の出町を特徴づける建築文化を見いだす。
- ③大正・昭和期の建造物を含め、既往調査から漏れている歴史的文化的価値を有する建築物の中から対象物件を選定し、実測調査する。

調査対象は、民家、土蔵、社寺建築などの建築物だけではなく、納屋や工場、祠や井戸、石垣や橋などの工作物などを含めて「建造文化財」と捉え、町内全域において悉皆的にリストアップしました(悉皆調査)。その結果、計738件をデータベース化することができました。この調査の過程で、中山間地に位置する割には比較的多い40件の社寺が確認されました。それらの境内には天然記念物に指定された土地固有の樹木などが茂り、無形文化財の祭礼や舞がのこり、地域の文化財として機能してきたことが判明しました。

つぎに、これら町内に所在する19件の仏教寺院を宗派・規模を問わず、境内地の実態と変容の過程を調査しました(寺院配置調査)。また、民家(店舗を含む)4件、寺院1件、公民館および旧郵便局それぞれ1件、計7件について、個別の建築実測調査を実施しました(実測調査)。

以上の調査から、日の出町を建築文化の観点でみた場合、中山間地に点在する土蔵群と寺院群は町内全域的な特質のひとつとして捉えることができ、また伝統産業である卒塔婆生産や林業に関連した羽生通り沿いに遺る建築物は、神社の祭礼、手入れされた田畑や屋敷林、里山などで構成される文化的景観と一体をなすものとして重要であり、さらには、五日市線旧岩井支線沿いの近代セメント産業などに関連した建築物は、日の出町の昭和期を語るうえで貴重であると言えます。



<町全域を対象とした建造文化財の調査>



<旧大久野郵便局>



<西羽生家住宅(表門)>



<日の出町公民館>

(2) 民俗

民俗は地形や自然に育まれた人々の暮らしを示す祭りや行事、習俗の伝承などを聞き取りや資料により調査しました。古くからの年中行事が残されている旧家、地域の人々に親しまれている行事や祭礼などとともに、それらを支える地域社会の活動が記録されました。

屋敷内には屋敷神の小祠、家の神棚には大神宮、そこには御嶽信仰の「お犬様」のお札が祀られている家もあります。

三ツ沢のように山の地域には、古くからの行事を今も継承している旧家があります。それらは山や自然への信仰、収穫への願いがこめられ、里のくらしと密接に結びついているものです。

冬の風物誌となっているサイノカミ祭りは、多摩地域で多く行われていますが、町内でも平井川沿いの地域で、地区ごとに受け継がれている行事です。

平井地域の神社では奴の舞・鳳凰の舞をはじめ、重松流祭り囃子などの芸能が人々の熱意と技で継承されています。鳳凰の舞は雨乞い祈願として舞われたといい、豊作への願いが込められたものです。



<奴の舞（春日神社境内）>



<小正月飾り（三ツ沢 小澤一彦宅）>



<伊奈澤天神社祭礼の豆太鼓売り>

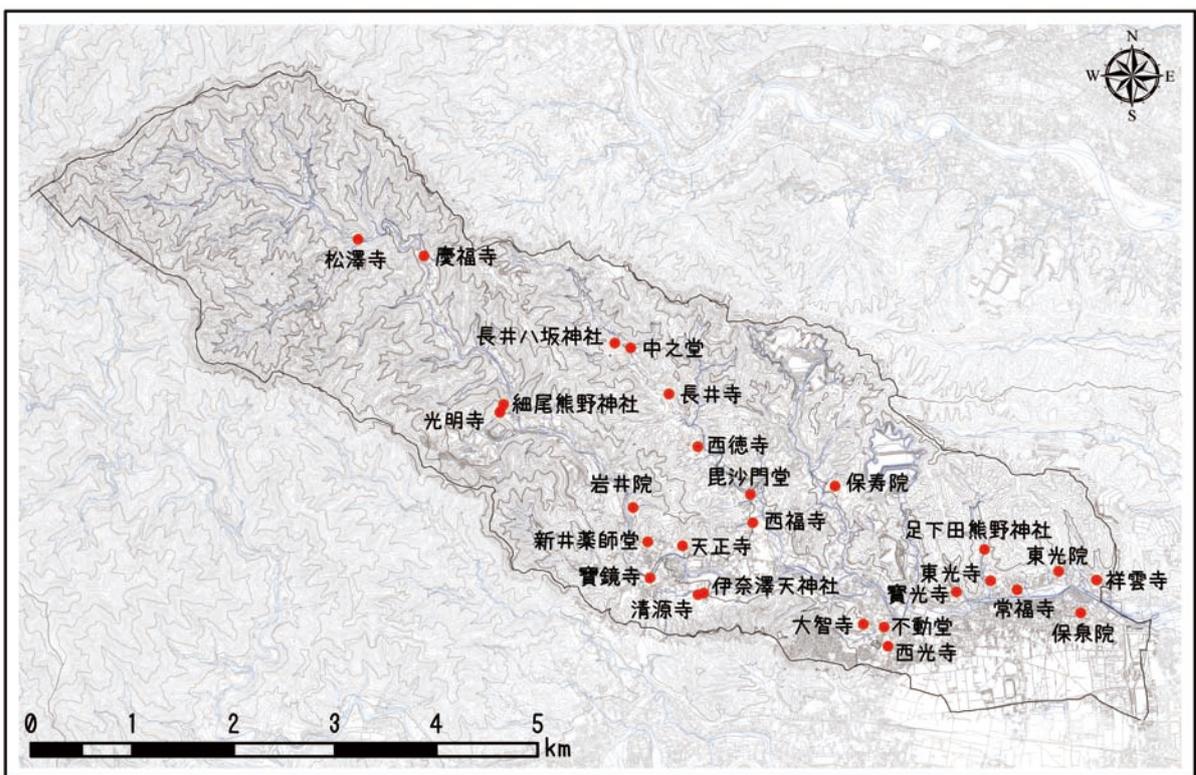


<サイノカミ祭りのドンド焼き（羽生地区）>

(3) 仏教美術

日の出町の信仰の歴史を特徴的に示すものとして仏像を捉え、仏像の形状、構造、銘文、納入品、保存状態などについて詳しい調査を行いました。

また、代表的な作例については、同年代の作品と比較検討して、再評価を行いました。今回の調査の結果、新井薬師堂の木造阿弥陀如来および両脇侍3軀は、鎌倉時代の13世紀後半の作品であることが確認され、木造薬師如来像(平安時代12世紀後半)と共に、古代から中世における信仰の歴史を考える上で欠くことのできない作品であることが解りました。新井薬師堂は、御嶽参道に向かう肝要谷の入口にあたり、参道沿いの各所に配置されている寺院や堂宇と仏像などを含め、御嶽信仰等の関連性がわかります。



< 仏教美術調査を行った社寺 >



< 新井薬師堂の木造仏教美術 >

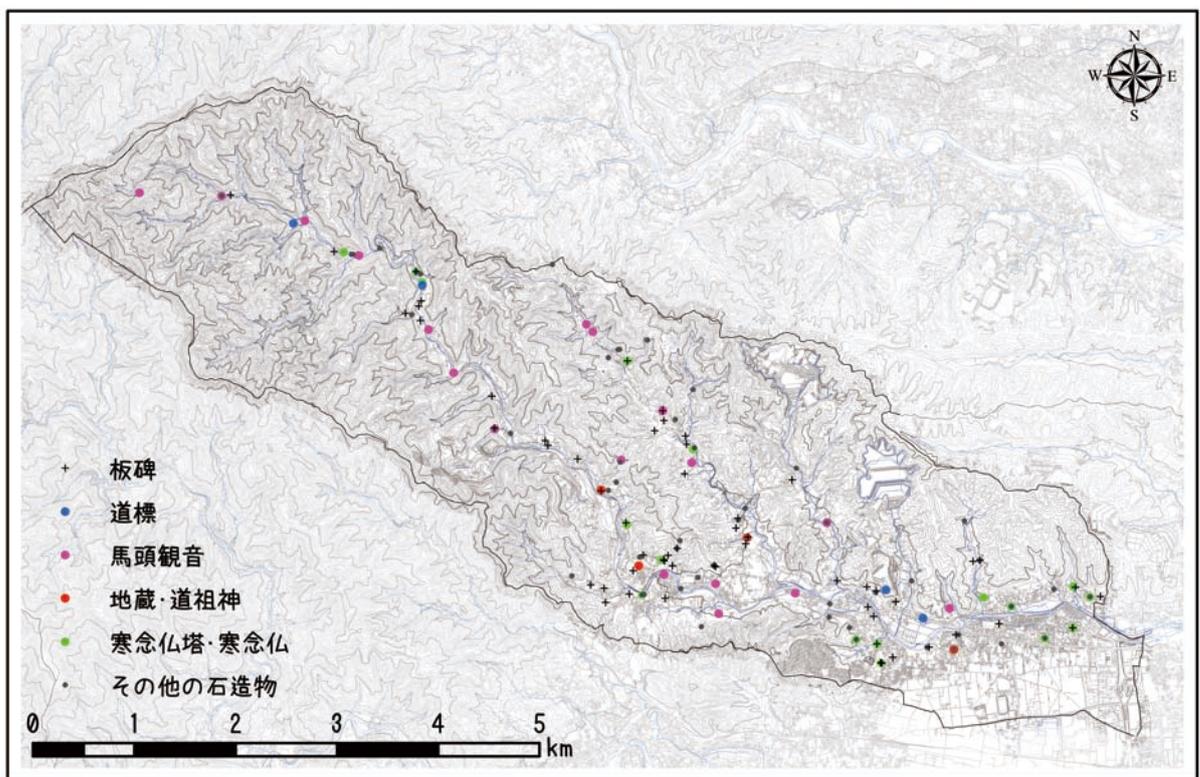
(左から, 阿弥陀如来立像, 阿弥陀如来立像脇侍, 薬師如来坐像, 月光菩薩立像, 日光菩薩立像)

(4) 石造物

日の出町の信仰や道との関連を示すものと石造物を捉え、既存の再調査もあわせて、町に多数存在する板碑、石塔、石仏などの石造物の状態、銘文などを調査しました。

総計 260 をこえる石造物の位置が記録されました。これらの調査により、中世に遡る板碑や五輪塔などが町内に多数残されていることや、近世の石仏では、日の出町の立地を反映して、水源地独特の俱利伽羅竜王（下写真左）や交通の要所に建てられる馬頭観音、道標などに優れたものが多いことがわかりました。

また、寒の時期に集って念仏を修する信仰行事の表れである寒念仏供養塔の多いことは日の出町を特徴づけます。使用された石材は、町内に産する伊奈石や石灰石を多く利用しています。



<石造物の分布>



<倶利伽羅竜王>



<舟形馬頭観音坐像>



<玉ノ内車地藏>

(5) 生物

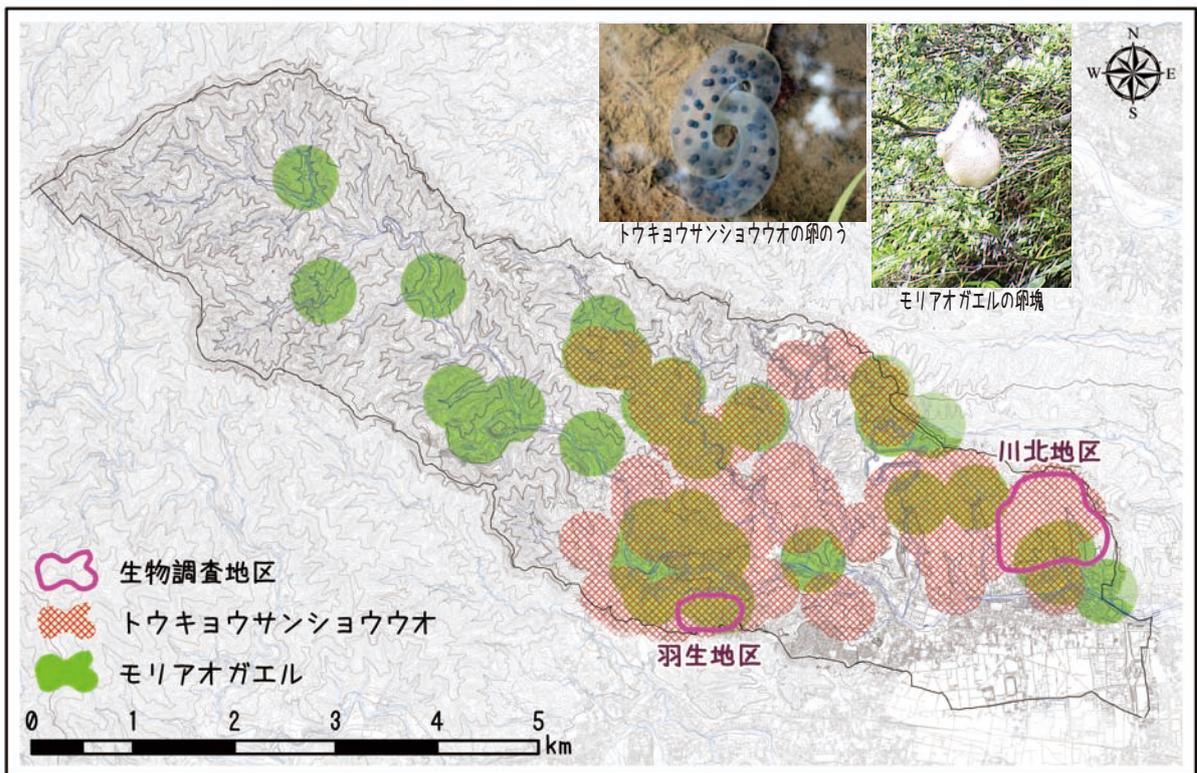
日の出町の豊かな自然は多くの町民に親しまれ、大切にされています。生物の調査はこのよう
な町民の意見をもとに、天然記念物であるトウキョウサンショウウオやモリアオガエルはもとより、
町内に生息する多くの生物をその生態系とともに守っていきたいという町民からの意見をもとに、
植物、鳥類、昆虫類、クモ類など幅広い分類群を対象に行われました。

その結果、天然記念物であり、流れや水溜りと森を生息地とするモリアオガエルとトウキョウ
サンショウウオについては、町内の各所で繁殖が確認されました。これは、都内のほとんどの市
では、急激に減少してしまった環境である自然の水辺と林や森が隣接する場が、日の出町には
まだ多く残されていることをあらわします。鳥類、昆虫、植物の項目については川北地区（草花
丘陵）と羽生地区（五日市丘陵）を生物調査地区として調査が行われました。ここでも、多くの
希少な動植物が確認され、多様な生物とそれらが
生息する丘陵地の生態系を貴重な文化財として残し
ていくことの重要性が確認されました。

自然や生物からなる文化財は、町のすばらしさを
伝えるものであり、自然とふれあうことのできる場と
して、観察会や勉強会の場合、子供たちの教育の場
として、さらには、生物多様性保全の視点からも重
要な場として、大切に守りつづけていくことが提案
されています。



＜生物調査で確認された昆虫類＞
左：オオトラカミキリ
右：クロコノマチョウの幼虫



＜生物調査地区とトウキョウサンショウウオ・モリアオガエルの分布＞

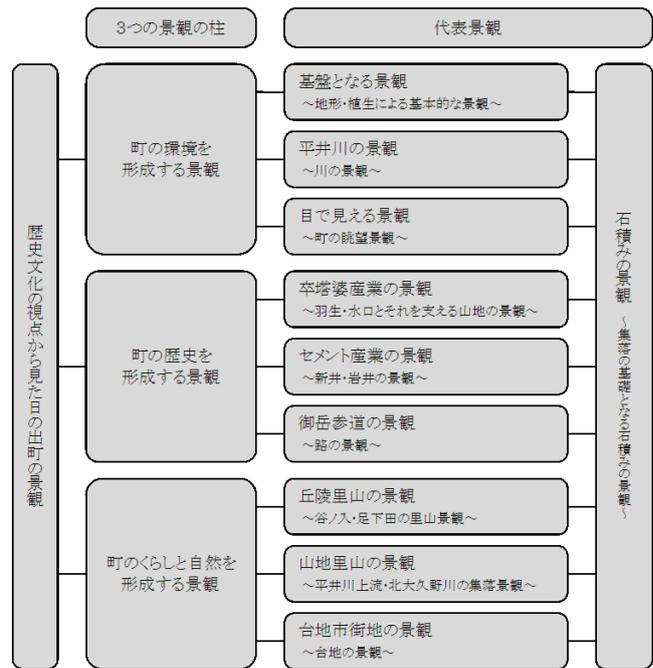
(6) 景観

景観調査では、景観を「歴史的に形成された人と自然の関係。共通の要素と類似のパターンをもつまとまり。空間的にも視覚的にも認識可能なもの。」として定義し、関連する文化財を把握するための基盤として日の出町の景観調査を行いました。

調査方法では町の景観の基盤をなす自然環境および文化や産業について資料や現地概査によって把握し、その上で現地踏査によって、町の自然、歴史、文化を代表する景観の把握を行いました。

その結果は「町の環境を形成する景観」、「町の歴史を形成する景観」、「町のくらしと自然を形成する景観」の3つの柱にわけられ、さらにその中は、それぞれの特徴やその構成要素、つながりなどから10の景観が認識されました。

さらに、その10の景観の中から、様々な文化財と関連し、文化財を総合的に把握するときの基盤となる景観として「平井川の景観」、「卒塔婆産業の景観」、「セメント産業の景観」、「御嶽参道の景観」、「丘陵里山の景観」、「山地里山の景観」の6つの景観を抽出しました。



＜日の出町の10の景観＞



＜平井川＞



＜卒塔婆産業＞



＜セメント産業＞



＜御嶽参道（久保田家住宅）＞



＜丘陵里山＞



＜山地里山＞

3 歴史文化の特徴

歴史文化は長い歴史の中で、土地の自然と人々の暮らしを通じて創られてきます。日の出町では、その歴史文化をあらわす文化財が、都市化の影響を受けることなく、数多く残されています。

日の出町では、多くの文化財が、町の自然と密接に関連していることが、特徴になっています。たとえば、この土地の杉や檜の林の中にはモミの木が自然に混生するという自然条件が、モミの木を利用した卒塔婆産業を生み出しました。また、石灰岩を利用したセメント産業は、山地をつくる中生代の地質に、石灰岩の地層が含まれていたことによって始められました。そして、材木やモミ、セメントなどの自然の資源を生かした産業によって繁栄した町の様子は、今も残る古い民家や蔵の佇まい、木造の住宅群、あるいは公民館の建物にもあらわれています。このように、森や山を守りながら利用してきた人々の文化は、今も旧家の行事や暮らしに残されています。

町の中心を流れる平井川の流域では、森からわき出る水によって、トウキョウサンショウウオやモリアオガエルが生息する水辺や、ヒメザゼンソウの生育する湿地が潤されています。また、平井川の川岸や周辺の斜面には、自然石の堅牢な石積みがつくられ、この地域での治山と治水の歴史が伺われます。そして、河原で行われるサイノカミの行事は、人々の川への親しみをあらわす行事となっています。

日の出町の特徴を形作るもうひとつの要素は、御嶽信仰の歴史と、街道沿いの宿場町としての歴史です。御嶽山の山麓の三ツ沢では講が組織され、中・近世からの行事が今も行われています。中世では、日の出町を南東から北西に横切る御嶽道は、御嶽への主要な参道でした。周辺には今でも多くの社寺があり、平安時代末期から鎌倉時代につくられた仏像をはじめとして、たくさんの文化財が残されています。また、鎌倉道や御嶽道などの街道沿いには、中世の板碑をはじめ馬頭観音や道標など、多くの石造物が残され、往年の街道の様子を伝えています。宿場町としての平井では、人々の手によって、鳳凰の舞の祭りをはじめとした、数々の祭りが行われています。

このように、「暮らし」が「自然」と密接にかかわる文化が継承され、町民の手によって数々の文化財が守られていることが、日の出町の、他の町にはみられない特徴となっています。このような文化財をささえる「自然」、「歴史」、「暮らし」と、その基盤となる「場(地域)」が日の出町の文化財を残してきたのです。したがって、これらの文化財を守るには地域的な取り組みが大切なのです。

4 歴史文化の保存に向けた基本方針

日の出町の歴史文化の特徴をふまえ、その保存に向けた基本方針を以下のように設定しました。

① 関連文化財群としての保存

文化財を単体として保護するのではなく、複数の文化財を相互に関連するまとまりである関連文化財群としてとらえ、その場所の自然と暮らしとともに保全します。

② 保存活用区域の設定

関連文化財群が集中的に分布する区域、あるいは数多く分布する区域を抽出し、保存活用を重点的に行う保存活用区域を設定して取り組みます。

③ 計画のモニタリングと見直し

保存活用区域や関連文化財群は固定的なものと考えず、社会条件や市民要望などの関連する計画や状況の変化に応じて、再検討するものとして、定期的な確認・評価と見直しを行います。

④ 町民の主体的な保存活用

文化財の保存活用は、人々の暮らしとともにあることが重要です。町民の意志によって町民が主体となって保存することを基本とします。

⑤ 世代をこえた継承への支援

文化財は、親から子へ、子から孫へと伝えることが大切です。身近な生活の中で人を育て、ひきついでいくものとして、世代をこえた継承を重要なものと考え、町民によるさまざまな保存活用活動の支援を行います。